

832号(週刊) 2003年3月28日 金曜日

始めませんかボランティア!

4人に1人が何らかの形で慈善活動を行っているボランティア大国アメリカ。「ボランティアを体験してみたい」と考えながらも、「それでは一体、どうすればいいの?」と、実行に踏み出せない人も多いのでは。数多くの慈善団体やイベントが存在する中、自分に合ったボランティア方法や参加団体、イベントを見極め、「初めの一歩」を踏み出すにはどうしたらよいか。在米日本人向けにボランティア情報などを紹介しているグループをはじめ、ボランティアに盛んに取り組んでいる企業や経験者に話を聞いた。

■NYでボランティア

今年1月に非営利団体の認可を受けた「NY de Volunteer Inc.」代表の日野紀子さんは、「ニューヨークでボランティアをやってみよう」と思っている人が最初の一歩を踏み出す手伝いができれば」と話す。

同団体は現在、様々なバックグラウンドを持つ20人のスタッフとともにウェブサイト運営、ニューヨークで日本人でも気軽に参加できるボランティア活動を企画したり、情報交換する「ボランティア・コミュニティ」を作り上げた。

ボランティア団体リスト、リンク集など情報収集のツールも充実し、メールリストや掲示板で情報交換することも可能だ。JETプログラムに参加した親日的なアメリカ人グループとの共催イベントを行っている。

同団体は4月26日土曜日、ボランティアに興味のある人向けのオリエンテーションを開催する。また、5月には2つの美化ボランティア企画も予定しているほか、日本からの慈善団体視察ツアー、個人向けの「体験ツアー」などのコンサルティングも展開する予定。詳細はホームページwww.nydevolunteer.orgまで。



写真=昨年10月には、NY ケアーズの先導の下、クイーンズ区のPS・223の校舎の壁をきれいに塗り直した。参加者は70人ほど



■会社ぐるみでボランティア推進

みずほフィナンシャル・グループ傘下のみずほコーポレート銀行ニューヨーク拠点(代表・野口彰二専務)には、「米州コミュニティ・リレーションズ課(CRA)」という地域ぐるみの慈善活動や財務サポートを行う部署が設けられている。

同課は毎年社員が「マーチ・オブ・ダイムズ」などのチャリティーウォークに参加する機会や、希望者には毎週火曜日のランチタイムにニューヨーク市内ミッドタウンの高齢者向け福祉施設「エンコア・コミュニティ・サービス」(西49丁目239番地)のカフェテリアで食

事配膳を経験できる機会を提供している。

同課シニア・バイスプレジデントのレスリー・パーマーさん、米州業務管理部長の米田保晴さんと一緒に参加したエンコアでの昼食配膳は、正味45分程度。ランチ時間で行える「クイック・ボランティア」として人気が高い。

エンコアは平日の昼食300食、週末800食をミッドタウン地域に住む高齢者に対して1ドルで提供。配膳のほか、高齢者が外出・買い物する際の同行、自宅訪問ボランティアなども募集している。問い合わせは、電話:212-581-2910まで。

米国のボランティア紹介団体サイト

■www.servenet.org=若者のボランティア参加を促進目的で「Youth Service America」が運営。200団体以上を紹介。ジップコード、特技などで特定検索できる

■www.nationalservice.org=「the Corporation for National and Community Service」が運営。全米ネットワークでボランティア・マッチと呼ばれる検索サービスがある

■www.networkforgood.org=AOLタイムワナー社、シスコ社とヤフーおよび20の非営利団体がインターネットを使った慈善活動を活発化させるための情報サイト

■www.volunteermatch.org=子供や学生、高齢者やグループで参加できるボランティアを居住地、特技、キーワードなどで検索できる

■www.pointsoflight.org=1990年にワシントンDCに設立され、全米に散らばる500のボランティアセンターのネットワークを持つ

■www.volunteersolutions.org=慈善団体ユナイテッドウェーが設立、地域別にボランティア情報をリストアップ

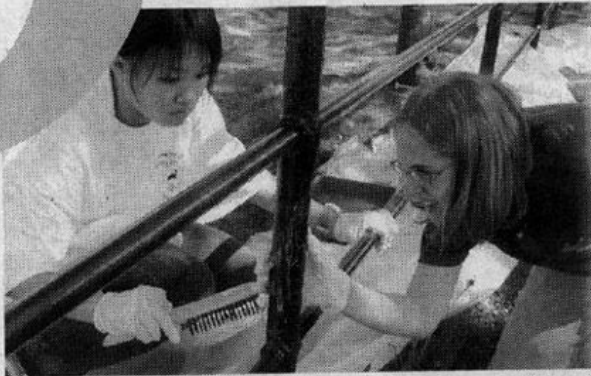
始めませんか ボランティア!

4人に1人が何らかの形で慈善活動を行っているボランティア大国アメリカ。
「ボランティアを体験してみたい」と考えながらも、「それでは一体、どうすればいいの?」と、実行に踏み出せないでいる人も多いのでは。
数多くの慈善団体やイベントが存在する中、自分に合ったボランティア方法や参加団体、イベントを見極め、「初めの一步」を踏み出すにはどうしたらよいか。
在米日本人向けにボランティア情報などを紹介しているグループをはじめ、ボランティアに盛んに取り組んでいる企業や経験者に話を聞いた。

■NYでボランティア

今年1月に非営利団体の認可を受けた「NY de Volunteer Inc.」代表の日野紀子さん(写真)は、「ニューヨークでボランティアをやってみようと思っている人が最初の一步を踏み出す手伝いができれば」と話す。

同団体は現在、様々なバックグラウンドを持つ20人のスタッフとともにウェブサイト運営、ニューヨークで日本人でも気軽に参加できるボランティア活動を企画したり、情報交換する「ボランテ



親日的なアメリカ人グループとの共催イベントを行っている「NY de Volunteer Inc.」

ア・コミュニティ」を作り上げた。
ボランティア団体リスト、リンク集など情報収集のツールも充実し、メーリングリストや掲示板で情報交換することも可能だ。JETプログラムに参加した親日的なアメリカ人グループとの共催イベントを行っている。

「日本人の中には、ボランティアをしたいと思っている人が結構いるのに、時間がなかったり、情報がなくてきっかけがつかめずにいるんです。一方、すでにボランティアに積極的に参加している日本人の中には、あまり社会貢献活動に参加しない日本人のことを取っつきかしく思っていたりと、日本人の間でも認識のズレ違いがあることも分かりました」

日野さん自身、ウェブデザイナーとしての忙しい生活を送り、興味のあるボランティアにたどり着くまで8年の歳月が流れていた。「参加者はバラエティーに富んでいて、在米年数、職業、年齢の幅も広い。それにもかかわらず、仲間としての連帯感が生まれる充実感があります。仕事や家庭での役割を越えて何か社会に役立っている、そんな満足感を得られる活動を企画運営し続けたいですね」

ボランティアを通じて得られる副産物は、作業後の充実感もあるが、人それぞれ。日ごろ会えない人々との出会いであったり、アメリカ人との交流であったり、自分の持つ資格やスキルが誰かの役に立ったりと様々なようだ。日野さんは、活動を支える資金調達も、今後の重要ポイントとして米国流の慈善団体の運営方法や交流などを学んでいるという。

同団体は4月26日土曜日、ボランティアに興味のある人向けのオリエンテーションを開催する。また、5月には2つの美化ボランティア企画も予定しているほか、日本からの慈善団体視察ツアー、個人向けの「体験ツアー」などのコンサルティングも展開する予定。詳細はホームページ www.nydevolunteer.org まで。



昨年10月には、NYクイーンズ区のPS・223の校舎の壁をきれいに塗り直した。参加者は70人ほど

仲間としての連帯感が生まれる充実感!

■気負わずにボランティア

ハーツデールに在住する主婦の本城清美さん(在米6年半)は、地元教会でスーパークITCHEN用のランチを用意する月1回のボランティアを6年間ほど続けている。同地区では、ホームレスシェルターに納入する食事を地区内の教会などが持ち回りで協力して、毎月第二水曜日の昼が本城さんたちの担当だ。

米国人、日本人ともに6、7人が教会の台所で調理する。所要時間は1時間程度。「多少時間的に余裕もあったので気軽に参加しました。「行けたらいく、無理はしない」と気負わず、続けていければいいと思って

ボランティアは生活の一部

「Service America」が運営。200団体以上を紹介。
「Community Service」が運営。全米ネットワークで
社とヤフーおよび20の非営利団体がインターネット
参加できるボランティアを居住地域、特技、キープ
全米にに散らばる500のボランティアセンターのネ
が設立、地域別にボランティア情報をリストアップ